



○自然保護委員会

全国一斉クリーンハイクにむけて

全国一斉クリーンハイクの集計結果によると、やはりコロナ禍によって実施できなかった地方連盟が約半数。埼玉県や京都府などでは地方連盟単位、期日も6月の実施ではなく、感染者数が一時的に減った10月以降に実施した会もあった。東京都連盟の町田グライウス山の会では、一斉ではなく10日間をクリーンハイク期間として、山行のときに積極的にごみ拾いを行った。登山道に落ちていたゴミが気になってはいたが、集計結果にもそれが表れていた。また、餌などの個装袋も目立っていた。わざと捨てたのではなく、ポケットから知らない間に落ちたのではないかと。各自が小さなごみ袋を持ち、それに入れれば防げそうである。期間が終了した後でも、ごみが気になった会員が拾っている場面も見つかった。コロナ禍の中だからこそ気がついた、新たなクリーンハイクの動きにも思える。

(安田優／全国自然保護委員)

○遭難対策部

八ヶ岳で死亡事故発生

1月6日から2月2日までに届いた事故一報は17件20名。9名が転倒(無雪期6名、積雪期1名、山スキー2名)。転落が5名(無雪期1名、登攀2名、人工壁2名)。凍傷が5名(海外1名、冬季登攀1名、積雪期3名)。凍死が1名。男性10名、女性10名。所属連盟は、東京が5名、佐賀3名、埼玉・神奈川が各2名、道央・岩手・群馬・岐阜・兵庫・広島・香川・長崎が各1名。年齢は、80代1名、70代7名、60代5名、50代2名、40代3名、30代1名、20代1名。登山形態では、無雪期7名、積雪期6名、山スキー2名、登攀3名、人工壁2名。

積雪期の八ヶ岳縦走で死亡事故が発生。道に迷って、東天狗岳山頂周辺でビバグ。翌日、71歳の女性が意識不明で運ばれたが、死亡が確認された。多くの問題点を含む事故事例である。致命的な失

敗が事故に繋がったと思える。事故一報から見えてくるものは、積雪期登山の体力と判断力。当日の行動予定と天候判断。天候の悪化による道迷い。ビバグ用装備の不携帯。計画の段階から「まさか：そんなはずはない」との思い込みが装備の不足や誤った行動判断に繋がったと思える。さらに詳しい報告により事故の検証を行い、教訓として生かす事が大切である。

この二ヶ月で昨年の状況と大きく変化している。登山形態では、昨年0件の冬季登攀が3件(4名)に増加。八ヶ岳赤岳登攀、北岳バツトレス登攀、大山北壁登攀。登攀も1件から3件。室内ジムも2件から5件に増加。事故原因では、昨年0件だった凍傷が5件、転落・滑落も倍増し登攀(室内ジムも含む)事故の増加が影響していると思える。大山の計画書でも「ひさしぶりの冬季稜線登攀なので、慎重に行動する」と記載があった。登攀事故は重大事故に繋がる。自身の技量や天候の判断を再度確認

し、慎重で無理をしない登山が求められる。

(石川昌／全国遭難対策部長)

※事故一報の一覧表は次ページを参照してください。

○労山基金運営委員会

全国総会で労山基金規定・細則を改定、周知を

2月総会で、労山基金規定が改正された。施行は、この時報が発行されている4月1日からである。改正の要点は、①救助捜索交付の増額改訂で、他の制度との差別化を図るため交付倍率を、現行400倍から改訂500倍に引き上げる。②入院日数は、これまでと比較し短縮傾向のため入院2日、通院1日から交付とした。③海外登山におけるトレッキング以外の5000メートル以上の高所登山およびすべてのパリエーション登山等については、労山基金加入から1年以上経過した会員に対して交付と記述を具体化した。④遭難者の安否確認や身柄保護で、

当該団体が現地に要員派遣する必要がある場合、交通費の実費について10万円を限度として支給する細則のただし書きが難解との意見が寄せられ、救助捜索費用を申請する場合は、この者が救助捜索に加わった場合交付すると具体化した。⑤この制度の略称を「労山基金」とした。⑥無事故報奨金制度は、各地方連盟から公平性を逸する、廃止すべきとの意見があり全体アンケート結果でも廃止意見が多く、本年3月末廃止とした。この規定改定文は、各会クラブ担当者に送付するので、加入者に周知をお願いしたい。

(労山基金運営委員／大澤辰雄)

○ハイキング委員会

新しいハイキング委員誕生

全国連盟のハイキング委員は、顔を合わせて会議を行うことが可能な首都圏からのみ、今までずっと選出されてきた。しかし、一昨年来のコロナ禍の中で、各方面にリモート会議が一気に普及した。労山全国連盟の諸会議や、専門部

活動でも採用が進み、首都圏だけの委員選出とする必要がなくなった。実際、全国ハイキング委員会も、しばらく前から、会議はすべてリモート開催としている。

こうした中で、このほど広域のハイキング委員が2名誕生した。北海道の佐藤美知弥さん(女性)、スマイル・マウンテンクラブと、香川県の市原義博さん(高松ハイキングクラブ)だ。ほかにもう1名、声をかけている人がいる。

今年秋には、山口県で全国ハイキング交流集会が開催予定だ。新しいハイキング委員も交え、実りある集会としたい。

(ハイキング委員 石川友好)